
平成 30 年度 交通に関する川上地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 21 日（木） 10：00～11：30

場 所：川上公民館視聴覚室

事務局：萩市、川上総合事務所、日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 29 名

報道関係：萩ケーブルネットワーク



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：私は後期高齢者で、将来的には免許返納を考えておりますが、ぐるっとバスは将来的にも続けていくのでしょうか。

事務局：ぐるっとバスは交通空白地域の移動手段として今後も運行する。但し、ぐるっとバスだけで自宅から目的地までの移動を全て網羅するのは難しいため、様々な移動手段を検討する。

参加者：川上地区内にある JA の窓口機能が旧萩市内にある JR 南萩支所に統合された。JA 南萩支所に行きたいが、最寄バス停である椿町バス停には路線バスが直接行かない。（防長交通の萩バスセンター～阿武川温泉・惣良台線は、椿町バス停を通過していない）。

長門峡北口バス停へぐるっとバスで行けると便利になる。（長門峡北口バス停には、防長交通の新山口駅～東萩駅前線、秋芳洞～東萩駅前線や中国 JR バスの防長線が通っており、直接椿町のバス停まで行くことが可能）

事務局：現在、ぐるっとバスの全 5 ルートのうち、1 ルートしか長門峡北口に乗り入れておらず、今後乗り入れを増やしていくことを検討する。

参加者：JA が合併して、椿町までぐるっとバスを回してもらえないか話したことがある。

事務局：長門峡北口は交通結節点として重要であると考えている。現状では、ぐるっとバスの接続が十分ではないため、改善する必要があると認識している。また、ぐるっとバスを旧萩市内まで延伸してほしいという話があったが、ぐるっとバスは交通空白地域の移動手段であり、路線バス事業者の経営を圧迫するため難しい。

参加者：江舟地区に住んでおり、ぐるっとバスが現在一日 2 便しかないため、夕方 16 時まで帰ることができない。総合事務所、農協で用事があっても夕方まで戻れないという問題がある。昼の便を増やしてもらえれば利用がずいぶん改善されると思う。用事が終われば 1 時間でも早く帰りたい。それを 3 時間、4 時間も待たなくてはならない状況を改善してほしい。

事務局：昼の便があるのは週 1 日しかないので、他の日でも昼の便を増やしてほしいということか。

参加者：はい。今は車を持っている人に送迎をお願いしているが、お互い高齢のため、いつまでも運転ができるわけではない。どうにかしてほしい。

事務局：ぐるっとバスについては今後検討したい。思った時間に行けて、帰れないという状況がある。現況は 1 割の方しか公共交通を利用されていないが、今後 8 割の方が公共交通を利用したいというアンケート調査結果になっている。移動手段の確保は、住民主体の移動手段も含めて検討していきたい。

参加者：江舟は 1 便あたり 4.6 人の利用者がいるという結果が出ている。他地区に比べても利用者数が多いため、よろしくお願ひしたい。

事務局：バスの段差が高く、高齢者には乗りにくい。

事務局：他地区の意見交換会でも、補助台を出してほしいという意見があった。

参加者：現行ではステップがでるようになっている。

事務局：地区内の移動手段の確保を目的に、介護保険制度で地域の移動を支えあう事業があり地区社協でも取り組みが始まろうとしているため、連携していきたい。

参加者：ぐるっとバスの利用が少ないという見方もありますが、診療所に毎日行くだろうか。普通の人は二週間に 1 回程度。一週間単位で考えれば、その程度の数字ではないかと思う。

今後、高齢化が進み自分で動けない人が増えていくことを考えれば、地域内で有償で運転できる人もそんなにいないと思っている。5 年後には更に状況が変化しているため、高齢化率が 8 割まで増えたときにどうするのかという視点を持って検討してほしい。若い人が地域にいれば自家用有償旅客運送もできると思うが、現実的に川上地域を見ると、とても厳しいのではないか。現状分析は 5 年後ぐらいを見据えてやっていただきたい。

事務局：現状のまま、何もしないというわけにはいかない。移動するということは高齢者が元気であることができるとも言える。福祉施策でもそうだが、運転手の確保が困難な状況になっている。仮に住民主体で実施する上でも、担い手の確保が喫緊の課題である。ただ、現状のままではどうしようもないので、路線バス、ぐるっとバスだけではなく、地域の担い手による移動手段の確保も含めて、計画策定を考えていきたい。

参加者：利用者負担の在り方については補助を出すということだが、ぐるっとバスを現行のまま無料で運行するのかという逆の考え方もある。どう考えているか。

事務局：利用者負担について、周辺部が割高であるとの認識がある。そこで福祉施策を含めて高齢者が外出しやすい方法について、市全体を見据えて検討していきたい。福祉施策とも連携して、方向性としては高齢者の移動手段の確保、利用促進も視野に入

れて検討する。

参加者：個人的にはぐるっとバスを利用するために、いくらか負担しても良いと思っている。車の運転もガソリン代が必要なので、その点は良いと思っています。

事務局：移動手段は確保したいのですが、持続可能性を担保する必要がありますからその点も考慮して検討したい。

参加者：高齢者になると手押し車を使いますが、これを載せられるような車両にしていっていただけないだろうか。乗せることができればずいぶんと便利になる。

事務局：公共交通を利用する上での配慮事項として車両を検討したい。

参加者：萩地域全体の課題として、萩・山口への交通手段がありますが、宇部・防府へのアクセスが悪い。宇部医大への治療・検査時にタクシーか身内の人に頼んでいかなければならないことが不便なので検討できないか。

事務局：交通事業者との調整や乗換えを含めて検討したい。

参加者：交通に関する新しい話題として、ライドシェアがあるが、川上地域で効率化して、実施する方法はないか。ウーバーなどのシステムがあるが、このような方法を適用できないか。また、萩市は導入に向けて積極的なのか教えていただけないか。

事務局：ライドシェアは、自家用車で運送することに関して、大きな力を発揮すると思われる。任意団体でも登録をすれば運送できる。京丹後市は過疎地域でウーバーを実施しており、利用者にとってはタクシー感覚で使えるメリットがある。その他の移動手段として、地域の助け合いなどの無償での運送は、安全性の確保は課題になる。

参加者：運転手不足という話は、ぐるっとバスの運転手の一日の勤務時間の上限が7.75時間までとなっており、運行時間が限られている事も要因の1つである。(ぐるっとバス運転手の意見)

事務局：川上地域の利用者のために運行したいという気持ちは大変ありがたい。しかし、萩市が運行管理をしており、契約上勤務時間の上限があるため、上限を超えた運行は難しい状況である。

道路運送法上は、拘束時間を含めて13時間以内までの運行は可能ではある。

参加者：ぐるっとバスで野菜を直売所などに運んでもらえないか。高齢者の方で野菜を作っているが、直売所まで持っていくのが大変という方は多い。せっかくぐるっとバスが走っているのだから、うまく機能すると良い。もし考えていただけるのであればお願いしたい。

事務局：ぐるっとバスについて、制度的には貨物と人を混乗させる貨客混載という方法はある。そのような方法も含めて、ぐるっとバスの見直しを検討したい。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上